



# スピリット 常中魂

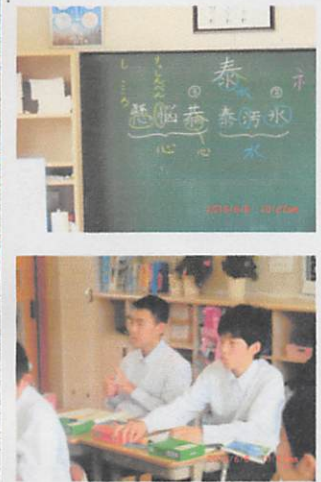
平成28年 6月6日 NO. 16  
〒311-1114 水戸市塩崎町1016  
TEL029-269-2116  
FAX029-269-3160  
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラ一版が見られます】

## 大塚教頭先生の国語の授業



水戸市では、教頭先生も授業を担当する。本校の大塚教頭先生も、一年一組の国語の授業を担当している。大塚教頭先生の教室は、いつ訪れても生徒の笑顔に溢れている。活発に発言する意欲も感じられる。



### 心のこもった挨拶ができるか



一年生たちの船中泊は、千波中学校・赤塚中学校・飯富中学校、そして本校の四校が一緒だった。船中の生活は、限られた空間の中で、四校が合同に行っていた。とはいっても、時間差で食事をして、時間差でデッキ見

学をするなど、他校と合同で活動することはほなかった。だが、どの学校も船中での生活態度は、よかった。とりわけ、本校の生徒たちの挨拶がよかった。同行した各校の校長たちは、デッキで全学校の全生徒と挨拶を交わしていたが、常澄中学校の生徒の返事が一番大きいという評価をいただいた。さらに、食事後に、整列して船のコックさんたちに「ごちそうさまでした」と挨拶する姿が見られたのは常中だけだった。常中魂が感じられる姿に、船の中のスタッフの人たちからも、「常中の挨拶は、素晴らしいですね。」と賞賛の言葉をいただくことができた。

**懸** 大塚教頭先生が発問する。「この字(上記の文字)の部首は何でしょう。」  
生徒たちからは、「シン・こころ」「シこころ」「気は心(笑)」(以下、教頭先生の発言は「」で生徒の発言は「」で示す。)

「あ、ハイ」  
「はい、〇〇さん」  
「したこころ」  
「正解です」  
「(驚き、笑い声と共に)したこころ!」  
「そう、よくいってくれたね。したこころでもいいです。でも、下心っ

にあるの?(下にあ  
るの)」と声がか  
かる。  
「あ、ハイ」  
「はい、〇〇さん」  
「したこころ」  
「正解です」  
「(驚き、笑い声と共に)したこころ!」  
「そう、よくいってくれたね。したこころでもいいです。でも、下心っ  
このように、一年一組の生徒たちは、教頭先生との絶妙の掛け合いを通して、漢字の部首を学んでいた。



